

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 三苦駅前 (北ユニット・南ユニット)		
所在地	〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦4丁目8番1号		092-410-7233
自己評価作成日	平成27年12月09日	評価結果確定日	平成28年02月03日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3階建ての高齢者複合施設の2階に在する2ユニットのグループホームです。1階には小規模多機能、3階には有料老人ホームがあり、秋祭りなどの合同で行う年間行事は、大変賑わいます。利用者ひとりひとりのペースに合わせて、毎日ゆっくり過ごしていただけるよう心掛けています。日々の生活の中では、個々が持っている力をできる限り生かせるよう環境を整え、それぞれが出来ることを見つけて行っていただいています。その他には、季節を感じていただけるようなレクリエーションにも力を入れ、季節の変化や楽しみを持っていただけるようにしています。さらに家族や友人、地域との関係も断ち切らないように、館内行事への招待や地域での祭りやカフェ活動への参加も積極的に行っています。医療面で協力医療機関に原土井病院があり、入居者の日々の状態把握に努め、状態の変化に素早く対応できるよう、主治医や看護師との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お洒落なマンションの建設が進み新しい街の息吹を感じる住宅街の中に複合型施設の2階にある2ユニットのグループホーム「三苦駅前」がある。清掃活動や公民館行事を通じて地域との交流を深め、複合型の利点を生かした秋祭りは地域のお祭りとして定着し、毎年盛況である。さらに、利用者は地域のサロンやカフェに積極的に参加し、馴染みの人と顔を合わせ、住み慣れた地域で町内会の一員として過ごしている。母体が医療法人であることから連携、継続した医療が確立し、さらに看護師が常勤しており、緊急時や看取りにも対応し安心が得られている。管理者は「人が命」と考え、利用者・家族・職員の尊厳を大事にしている。職員は勉強会に自発的に参加し、向上心を持って日々研鑽している。専門職としても人としても驕ることなく、いつも笑顔を絶やさず、利用者の自立を意識した寄り添う介護をチームで実践しているグループホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		093-582-0294
訪問調査日	平成28年01月22日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とホームの職員みんなで考えた理念を見えるところに掲示し、毎月の定例ミーティングで振り返りを行いながら実践できるように心掛けている。	法人理念と職員がホームとして介護の在り方を考えて作った介護理念を掲示し、毎月の職員会議の中で理念について話し合い、日々の介護の中で実践出来ているかを確認している。また、職員は常に理念を意識し、利用者が安心して暮らせる介護の提供に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加し、カフェ活動には毎回お誘いして頂いている。施設の秋祭りの際、地域の方からボランティアの申し出を受け前日準備からのお手伝いをして頂いたり、地域サークルからの出し物などで賑わったり、大いに交流できている。	地域の祭りや公民館活動に利用者と職員が参加し、ホームの秋祭りには、親しくなった地域の方や各種ボランティアが準備段階から参加して貰い、地域の子供も参加し、活発な地域交流が始まっている。また、地域の清掃活動が縁で介護相談に繋げている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護教室の依頼を受け、講師をさせていただいている。電話相談や見学に来られる方には、その都度アドバイスを行っている。地域の清掃活動にも参加している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の行事や活動報告を毎回行っている。行政や地域の方々にもたくさん参加していただき、皆様からは様々な意見や要望などを頂戴し参考にさせて頂いている。意見は今後の改善に生かしたいと考えている。	併設小規模多機能ホームと合同の会議を2ヶ月毎に開催し、ホームの運営状況や取り組み、問題点等を報告し、外部からの参加委員の目を通した意見や要望、質問等が提案され検討して、ホームの運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括主催の会議などには積極的に参加し、会議の際には時々事業所について話をする時間などを頂き、積極的に取り組みなどを伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を理解した上で、助言や情報提供の提案があり、協力関係が築かれている。また、行政主催の研修会や行事に参加し、情報交換しながら行政との連携が図られている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修でスピーチロックをなくす取り組みを行い、スタッフ全体の意識を高め、お互いに注意しあえる関係ができてきている。	研修会の中で身体拘束について学んだ職員が、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束が、利用者に及ぼす弊害を理解しながら、具体的な禁止行為についての事例を検証し、職員間で話し合い、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受けたスタッフが、内部研修講師を務める工夫を行い、虐待防止についてスタッフにも周知するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しており、後見人制度を利用されている方も数名おられる。そのため、職員は後見人制度の必要性の理解はある。	現在、成年後見制度活用の利用者がいるので、職員は制度の重要性について理解を得ている。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請手続きについて説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。また、職員は権利擁護に関する制度の研修会に交代で参加している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には職員2名以上で契約書、重要事項説明書を読み合わせ、説明を行っている。その際に契約に対する疑問や質問を受け、説明している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事は外部委託のため、月1回の食事会議の際に入居者に参加して頂いたりして意見を言ってもらえることがある。また、家族には面会時に意見や要望を訪ね、食事会議の際に要望などを伝えている。	職員は、利用者と日常会話の中から思いや意向を聴き取り、家族の面会や行事参加の時に話し合い、利用者の健康や生活状況を報告し、家族からの意見や要望、気になる事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護計画作成に活かせるように取り組んでいる。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に出た意見や提案を検討し改善している。管理者は定期的に個人面談を行い意見を聞き反映できるように心掛けている。社内にも相談窓口があり、個別に相談できるようになっている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や要望、心配事を話し合い検討し、ホーム運営や業務改善に繋げている。管理者は、現場を熟知している職員の意見を参考にし、介護計画やホームの環境整備に取り組み、職員一人ひとりの意欲に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にあった年間の研修計画を立てられ、その他にも学びたい内容がある場合には研修に参加することもできる。毎年昇給も実施され、個々の能力や実績が反映されるよう考えられている。向上心を持ってるように努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員個人の得意な部分が発揮でき、自己表現ができるよう勤務表等で、配慮をしている。職員採用については、一切排除は行っていない。	職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え等を優先している。採用後は、新人研修や外部の研修会に交代で参加し、介護知識と技術の向上に取り組んでいる。また、職員の休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、働きやすい職場環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人本部から人権研修を定期的に受講し、管理者を通じて人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人の全体研修や職員会議の中で、利用者の人権を尊重する介護の取り組みについて職員一人ひとりが理解し、言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心して暮らせるホームを目指している。また、法人理念の中に、高齢者の尊厳について明示しており、職員は常に理念に基づいたケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	原土井病院内で行われている研修に参加し、研修の年間予定表を作り、全員が研修を受けられるようにしている。その他、個人で学びたい研修がある場合には積極的に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営推進会議に参加したり、施設内のイベントにお誘いして来ていただいたりしている。系列のほかに事業所の職員に訪問して頂き、音楽会を開いてもらっている。また、法人内や系列内の他の事業所での行事や研修の際には互いに訪問したりしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネ、ソーシャルワーカー、看護師等から情報を得て、ご本人の生活歴から話題作りを行い、お話ししやすいことから訪ねるよう心掛けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の見学や、申し込みの時点で十分な時間を掛け不安や悩み等をお聞きしている。必要があれば、その都度電話等をし安心して頂けるような環境づくりを心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、本人や家族の状態を考えながら、ほかのサービス利用も視野に入れ考えるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や思い、その人らしさを大切にし、その方にできることを見極め、ユニット全体で支え合いながら生活していくよう心掛けている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とともに、ご本人を支えていただけるようにご相談し、受診や外出・外泊など協力して頂いている。家族だけでは外出が難しい場合などは職員が送迎のお手伝い等させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会があり、一緒に外出などもされている。また、地域のカフェ活動にも参加し、馴染みの人との交流もできるように支援している。	入居時に、利用者の人間関係や行きつけの商店、食事処等を聴き取り記録し、職員全員で情報を共有し、利用者の希望を聴き取り、家族と相談しながら利用者に行っている。また、利用者の友人の面会には、ゆっくり話せる場所を提供し、また来てもらえるように配慮している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲が良く、互いに聞いたり教え合いながらレクリエーションなどに取り組んでいる。孤立しがちな方には職員が関わり、その場の雰囲気を読み取りながら支援をしている。		
24		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病室に見舞ったりしながら経過のフォローをしている。必要あれば、ご家族や後見人と連絡を取り、関係を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、本人や家族と話し合いながら本人の希望や意向の把握に努め、それに沿った支援をするように努めている。	職員は利用者との人間関係を築き、なんでも話し合えるように努力し、利用者の思いや意向を聴き取っている。意志を伝えることが困難な利用者には、家族に相談し、職員が利用者寄り添い、表情や目の動きから、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネや家族や友人の面会時にこれまでの生活歴や経過などの聞き取りを行い、情報収集を行っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや連絡事項用紙にて日々の変化や過ごし方についての情報の把握ができるように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に日々のケアについて利用者全員の支援内容を話し合い、家族の面会時には希望や要望を聞き取り、その中で出た意見を、ケアプランに活かすよう努めている。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングの中で、職員同士で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡事項の用紙にて情報の共有をし、ケアの見直しなどをした場合には、職員全員で情報を共有し、把握するようにしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに合わせて、外出や外泊時の送迎などを行い、話し合いながら柔軟なサービスができるように心掛けている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーに買い物に行ったり、地域のお祭りや行事などの参加を促している。ボランティアさんに歌や折り紙の指導をしてもらったり、館内行事では一緒に食事の準備をしたりと協力を得ている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	往診日は事前に連絡をし、主治医からの説明を聞かれたい家族には往診日に立ち会い、説明を聞いていただけるようにしている。家族とかかりつけ医に受診される場合は必要に応じて職員が同行している。	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診を、家族や職員の対応で行っている。協力医療機関の医師による往診体制が整い、看護師と介護職員が協力し、充実した医療連携体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りに看護職も参加し、必要な処置は連絡を取り、行っている。また、主治医からの指示で必要に応じて受診を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には十分な情報交換を行っている。入院中にはお見舞いに行き、経過情報などの情報交換も行っている。定期的に連携医療機関の会議にも参加している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを実施することになり、家族と主治医との面談の機会を設け、意向の確認をし、定期的に今後の話し合いをしている。家族には面会時に状態報告を行っている。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族にホームで出来る支援と、医療機関でしか出来ない支援について話し合い、承諾を得ている。今回、看取りを希望する家族と今後の介護方針を話し合い、主治医の協力と職員間の連携を整え、終末期の支援体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどのスタッフは救命講習を受けている。事故発生時の対応は、各ユニットにパンフレットを準備し、スムーズな対応ができるようにしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に全館合同で防災避難訓練を実施している。発生時の通報や初期消火の手順などの確認を行っている。	年2回、3事業所が合同で防災訓練を行い、各事業所の職員同士で連携し、火元を特定して2階の利用者の一時避難場所に、利用者が安全に避難出来る体制が整っている。また、通報装置や消火器の使い方を確認し、避難経路や非常口を確保し、いざという時に備えている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意し合い、尊厳やプライバシーを守り、優しい声掛け、さりげない見守りで対応している。	利用者の尊厳や権利を守る介護の在り方を学び、職員の声掛けや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した、介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、鍵をかけて見えない場所で保管している。職員の守秘義務については、管理者が常に説明し、職員一人ひとりが理解している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定ができるように心掛けている。レクリエーションでは何種類かの物から選んでいただき、好きなものを実施している。また、入居者からの希望も積極的に取り入れるよう心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないようにメリハリのある生活を心掛けているが、個人のペースや希望を大切に支援するよう心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はなるべく本人に行ってもらっている。行事の時には女性にはお化粧してもらうなどの支援を行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部委託のため、自分たちで作ることは難しいが、月に何度かは出前とったり、職員と一緒に調理できるものを手作りしている。調理をする際には、材料を職員と一緒に買い物に行ってもらっている。	栄養バランスに配慮した配食サービスを利用し、毎日職員が検食し、意見や要望、苦情を提言し、味や彩り、盛り付けに工夫している。毎月1回、手作り料理を利用者と職員と一緒に調理し、利用者の作る喜びと、食べる楽しさに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託のためカロリー計算されたメニューが提供されている。利用者に応じて食事形態を変えたり、介助する道具も変えている。入居者に状態に合わせて主治医と相談し、経口流動食なども使用している。水分は摂取量を記録して状態の把握に努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ほとんどの方の仕上げ磨きには関わっている。口腔ケアが十分にできていない方には定期的に歯科往診を受けられ、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けをしたり誘導するなどして、できる限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	トイレで排泄することを基本とし、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握した職員が、早めの声掛けやトイレ誘導を行い、利用者の自信回復に繋がる排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜ジュースなど、便秘予防になるような食品を摂取して頂き、毎日体操を行ったり、便秘時には他のフロアへの散歩などを行うなど、なるべく薬を使用せずに済むよう心掛けている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、入居者の体調や気分に合わせて入浴して頂くようにしている。入浴時には1人ずつ、ゆっくり入浴して頂けるよう心掛けている。	入浴は週2～3回を予定し、利用者の健康状態や希望を優先し、楽しい入浴が出来るように支援している。また、入浴時には肩まで浸かってもらい、職員とゆっくり会話をしながら、楽しい入浴になっている。入浴を拒む利用者には、職員が交代で声掛けし、無理強いのない支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や体調、生活習慣に応じて臥床時間を設けるなど、適度に休息するなど対応し夜間の安眠につなげている。		
49		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はカルテにファイルしており、全職員が把握できるような状態になっている。また、変化を細かく主治医に報告し、変更があった場合には、その都度連絡し、把握に努めている。居宅療養管理指導が入っており、薬剤師より薬の管理がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳や食器洗い、洗濯物干しなど主婦としての役割を継続して頂いている。季節に合ったレクリエーションを行い、梅ジュースや干し柿作りなどを行っている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には職員と一緒に散歩に行ったり買い物に行くなどしている。季節ごとに外出レクリエーションを行っている。その他、友人や家族に協力して頂き、外食や外出・外泊をして頂いたりもしている。	気候の良い時期は、日課の散歩に出かけ、利用者の気分転換に繋げている。買い物や花見、ドライブに出かけ、季節を肌で感じてもらい、利用者の生き甲斐に繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、家族や友人の協力を得て、外食や買い物に出かけ、利用者の生きる力を引き出している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度を所持している方もおられる。欲しいものなどがある場合には、希望に応じて一緒に買い物に行くなどの支援もしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時に使用できるようにしている。定期的に親族や友人の方からお手紙が来ている方もおられる。年賀状を作成したり返事を出したいと希望があればお手伝いしている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭気への配慮、安全な動線確保に努め、光などはカーテンなどで調節している。季節を感じていただくため、季節に応じた飾りつけを行い、居心地のいい空間づくりを心掛けている。また、居室は部屋ごとに好きな配置で飾りつけや模様替えをして頂いている。	2階部分に位置し、利用者が一日の大半を過ごすリビングルームからは、仲の良い利用者同士の会話や職員と一緒に作品作りを楽しみ、音や温度管理と換気に注意し、照明に工夫する等、明るくて、清掃が行き届いた共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で過ごしていただけるよう心掛けている。意思表示が難しい方でもできるだけ皆さんと過ごしていただけるよう工夫している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものなどを持ってきていただき、それぞれ使いやすい配置で家具などを置き、居心地のいい空間になるよう工夫している。	寝具、鏡や写真、お気に入りの洋服、生活用品を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに暮らせるように工夫し、居心地の良い居室になっている。また、家族や面会者が、ゆっくり和やかに過ごせるように配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの壁、トイレ、脱衣所、浴室、それぞれに手すりがついている。各部屋にはご自分で洗面ができるよう洗面台が付いており、転倒時の衝撃が和らぐよう、床にはクッション材を使用している。		